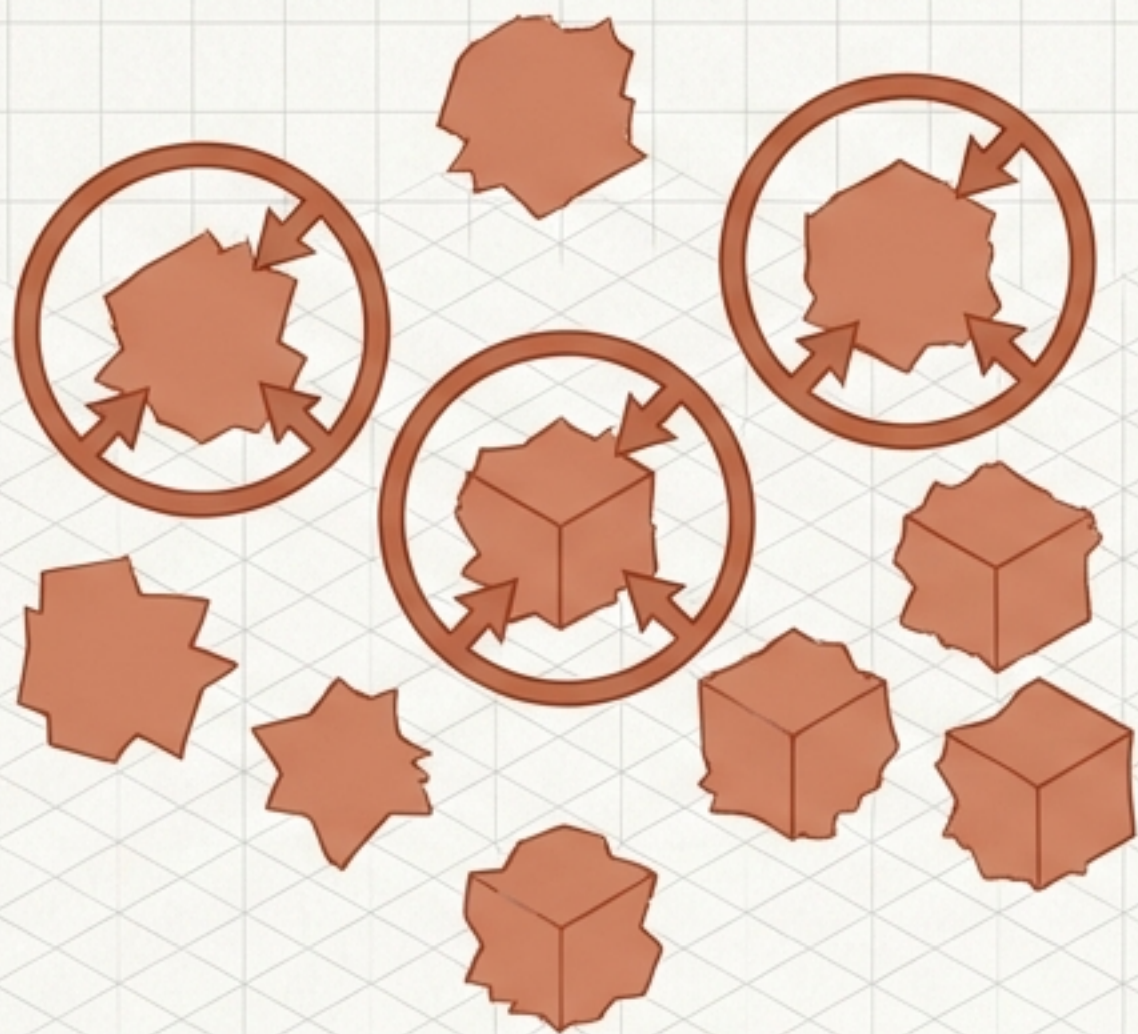


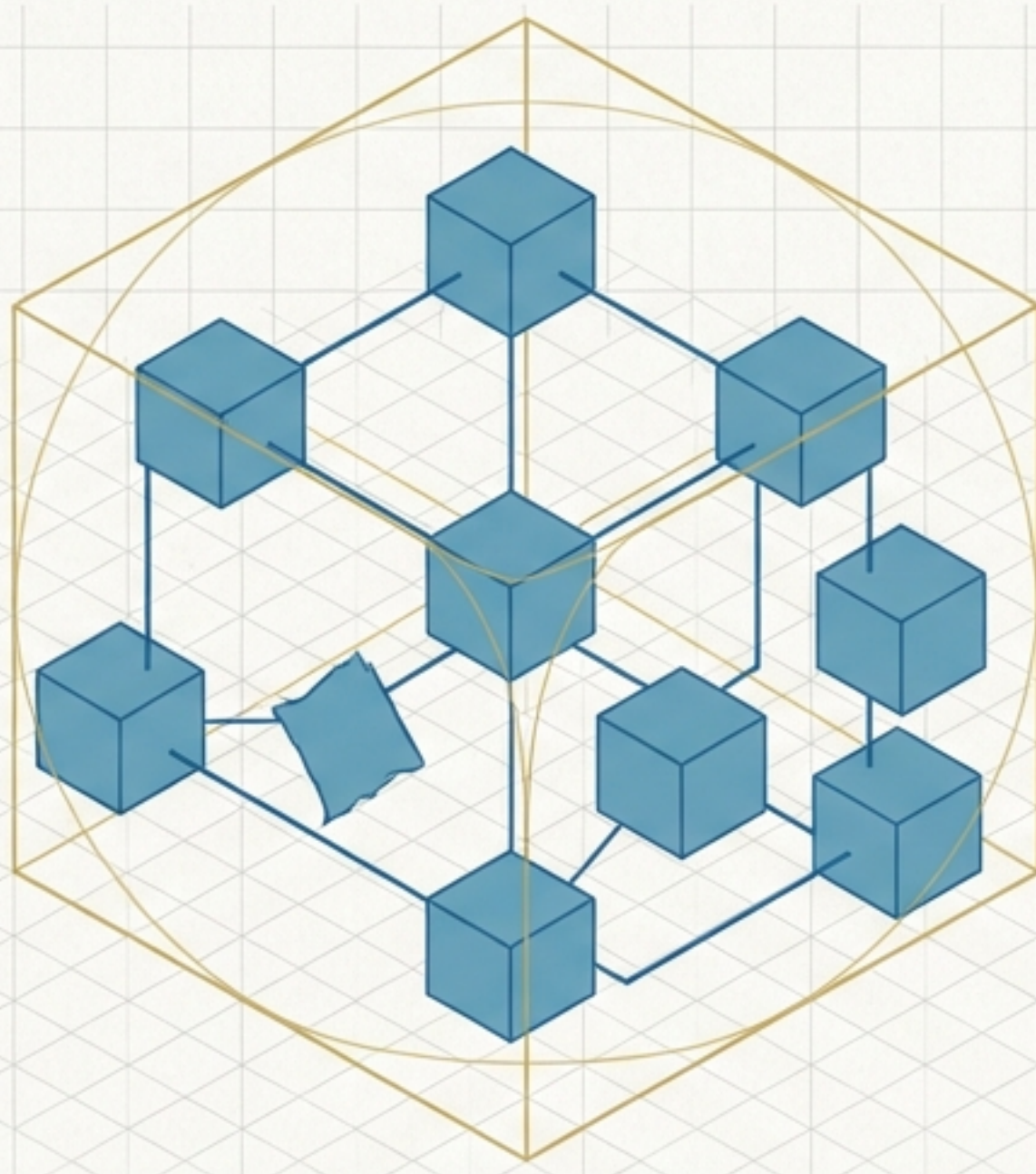
憲章の存在意義：構造的「分断」と「操作」の回避

島宇宙化と権力集中



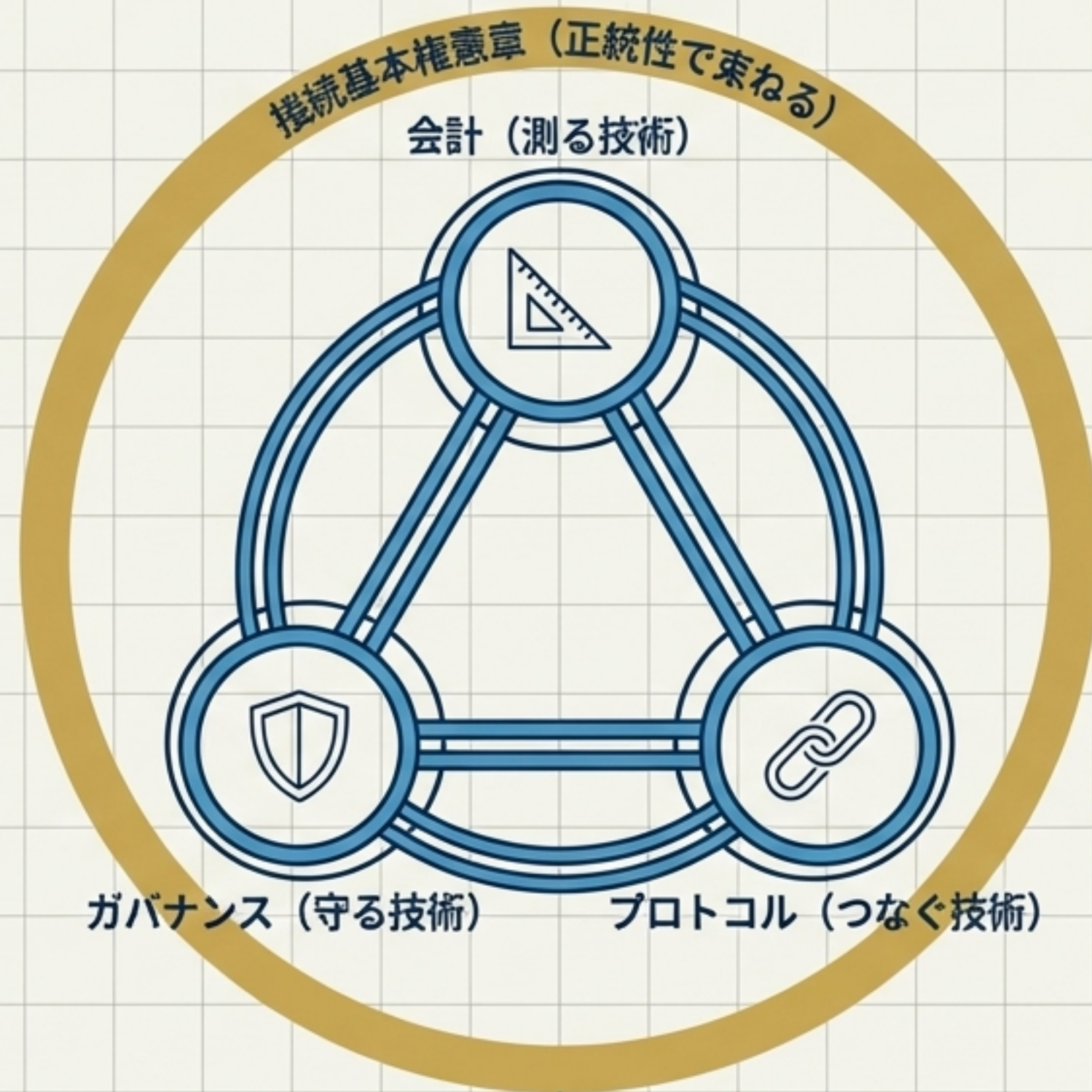
独自の規格による「島宇宙化」と強制・囲い込みのリスク。

上位規範

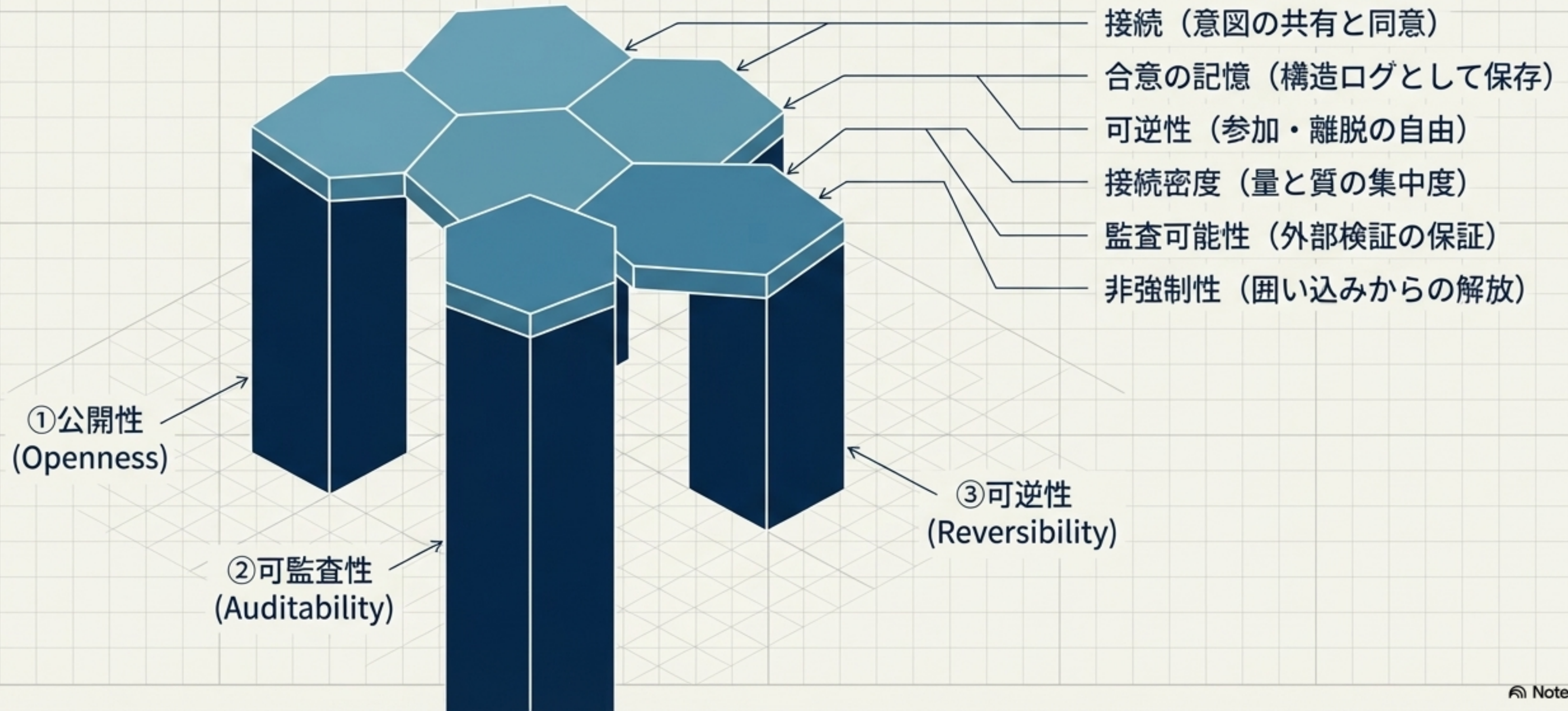


制度全体を統合し、正統性を保証する上位規範の確立。

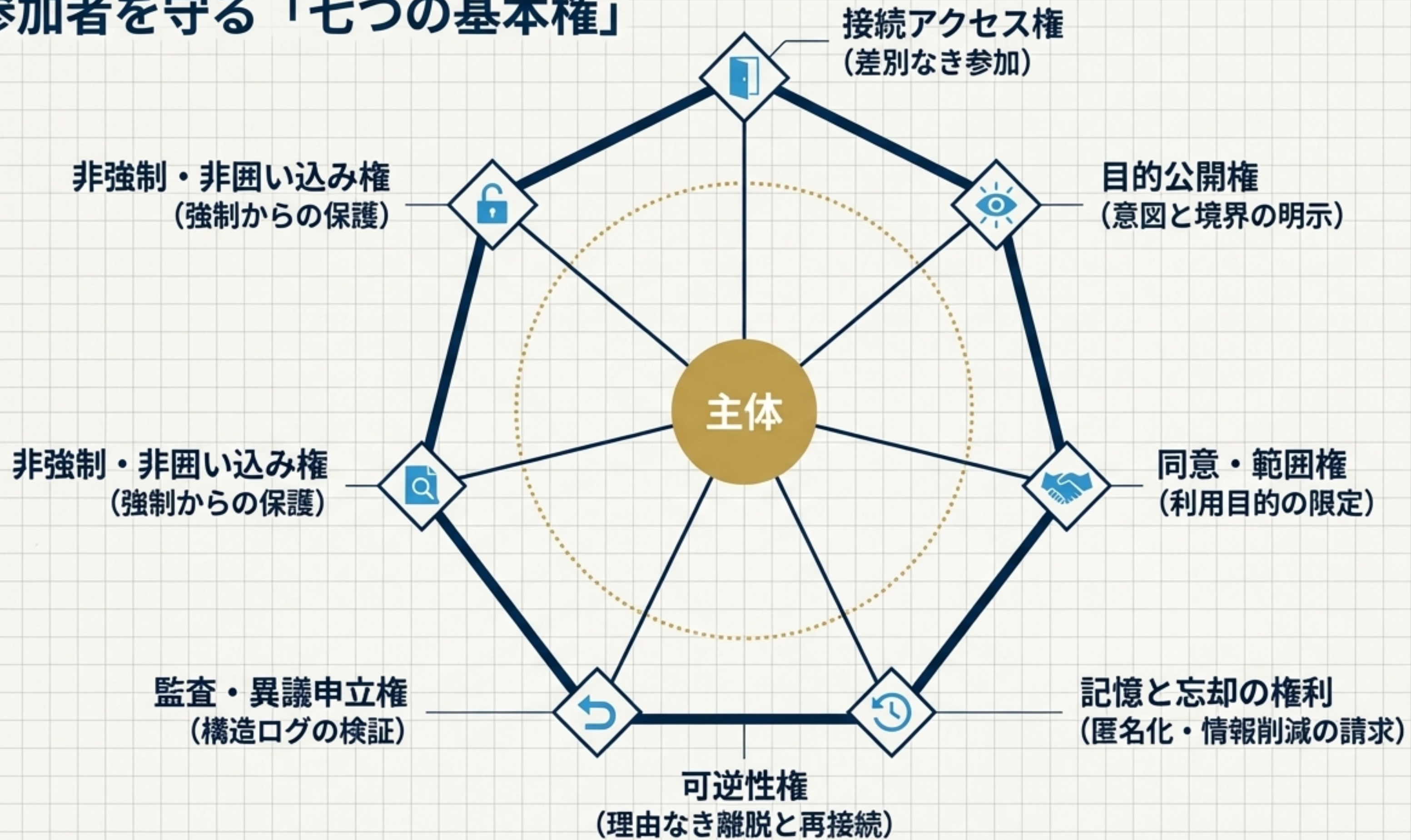
接続社会を支える三層構造と「束ねる規範」



制度を支える「三支柱」と「六つの基礎語彙」



参加者を守る「七つの基本権」



制度を維持する「四つの基本義務」

構造の保全と正統性

誠実義務：
意図を偽らず、合意
に基づき行動する。

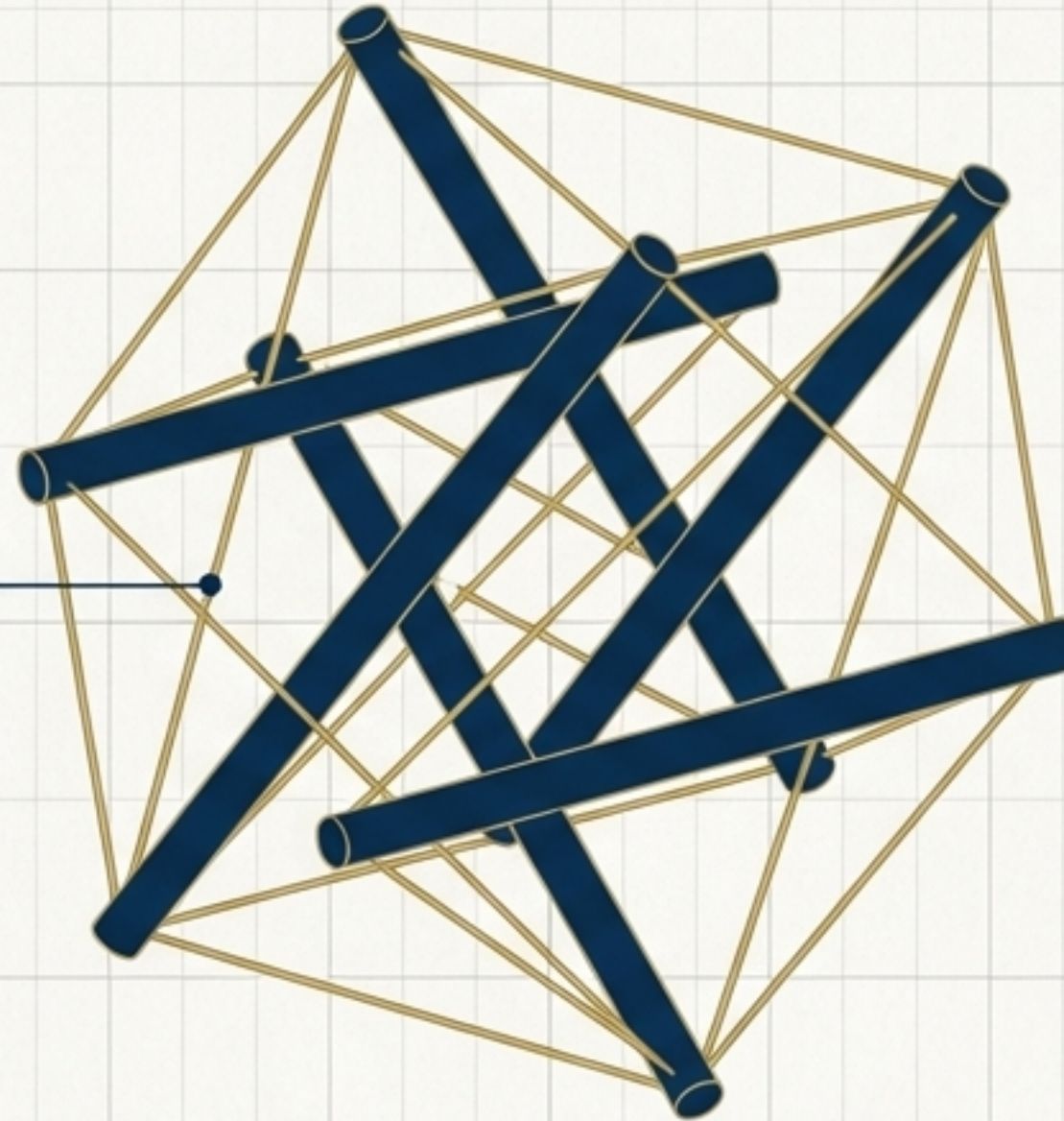
非濫用義務：
指標ハックや声量
による操作を行わ
ない。

機密尊重義務：
公開室と機関室の境界
を守り、秘匿情報を
漏らさない。

構造保全義務：
構造ログを改ざん
せず、完全性を保つ。

権利と義務の構造的均衡（Tensegrity Balance）

七つの基本権：
個人の自律と流動性を
担保する「張力」。



四つの基本義務：
システム全体の崩壊を防ぐ
「支柱」。

権利（自由）と義務（負荷）の対称性が、
接続社会の物理的安定を生み出す。

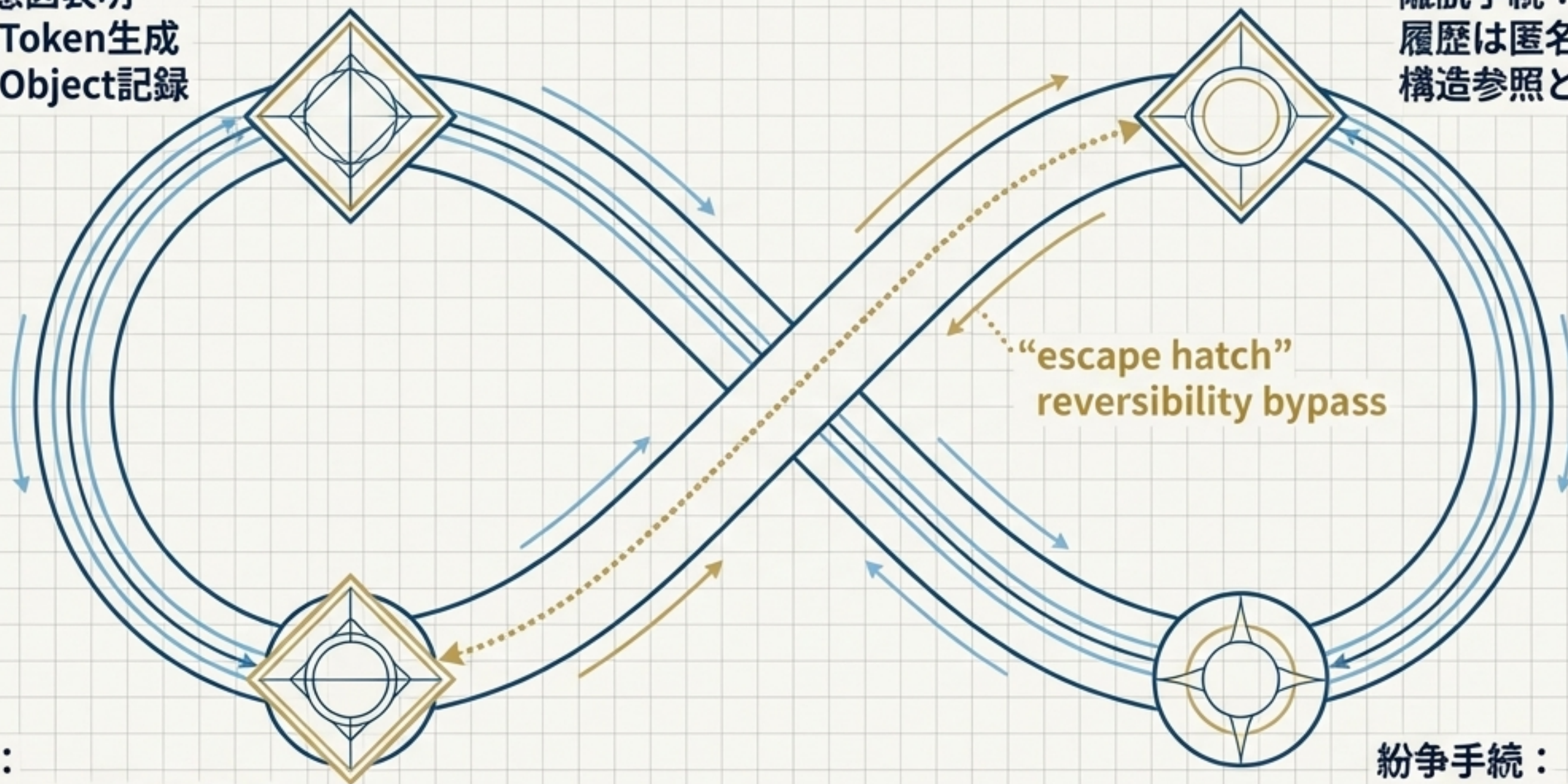
可逆的な「接続ライフサイクル」の基本手続

参加手続：意図表明
→ ConsentToken生成
→ MemoryObject記録

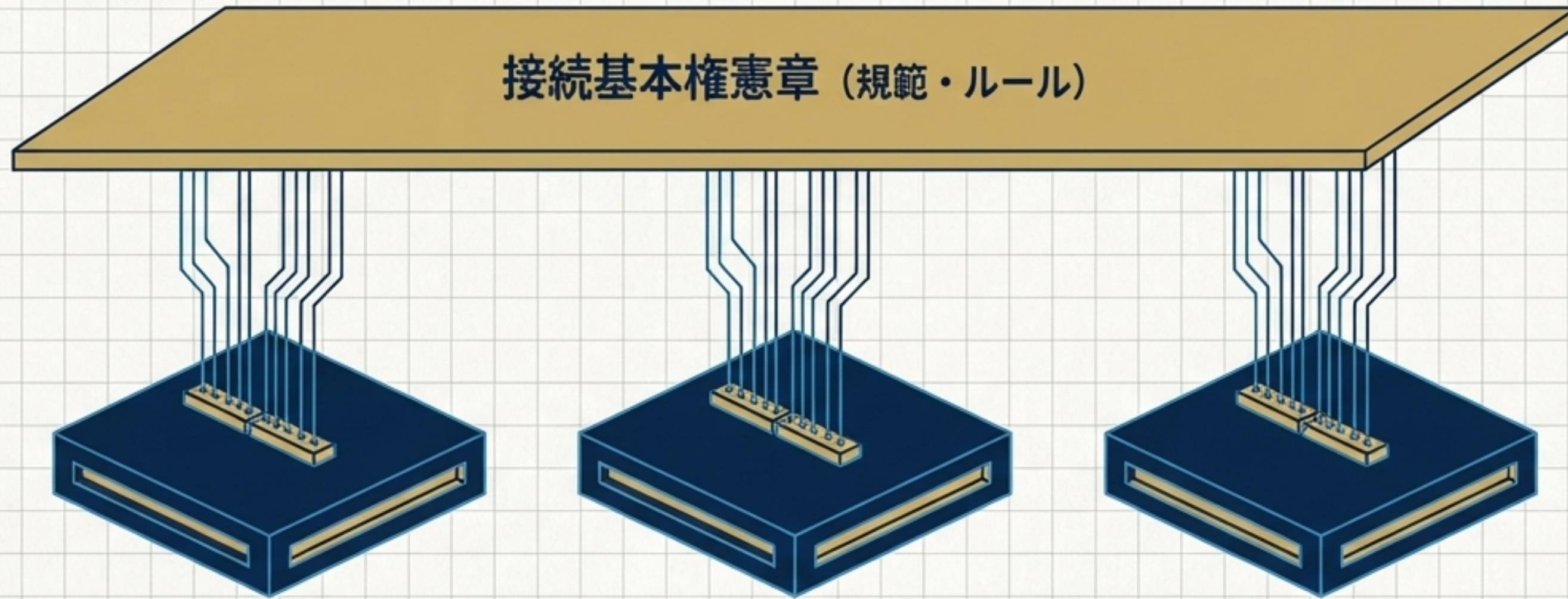
離脱手続：即時離脱。
履歴は匿名化し
構造参照として残留。

再接続手続：
条件更新・再同意による復帰。
(過去ログは個人特定せず参照)

紛争手続：
仲裁を経た後、公開
審査要旨を社会へ提示。



制度間の結節点：憲章はいかにして実装されるか



【会計】

接続指標 (CDI, MAI, RS, CRI, KQI) の読み取り許可。

※貨幣化は厳格に禁止。

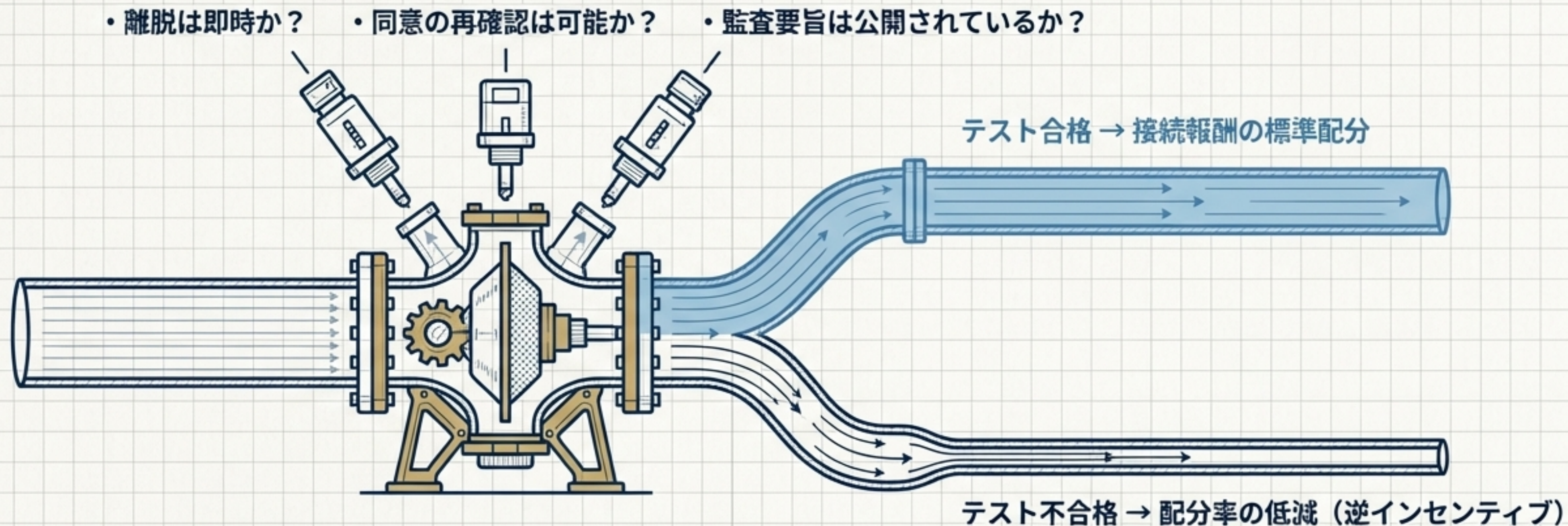
【ガバナンス】

複合指標束・二室モデル
(公開室/機関室) の実装
による濫用防止。

【プロトコル】

SubjectID, RelationID,
ConsentToken,
MemoryObjectの共通
基盤化。

準拠テストと「逆インセンティブ」による実効性担保

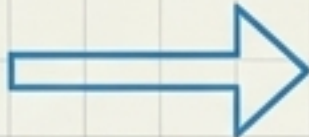
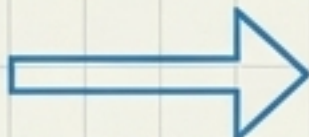
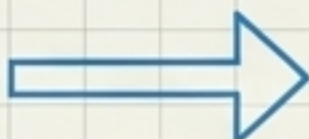


強制ではなく、構造的な配分制御によって制度の健全性を自動維持する。

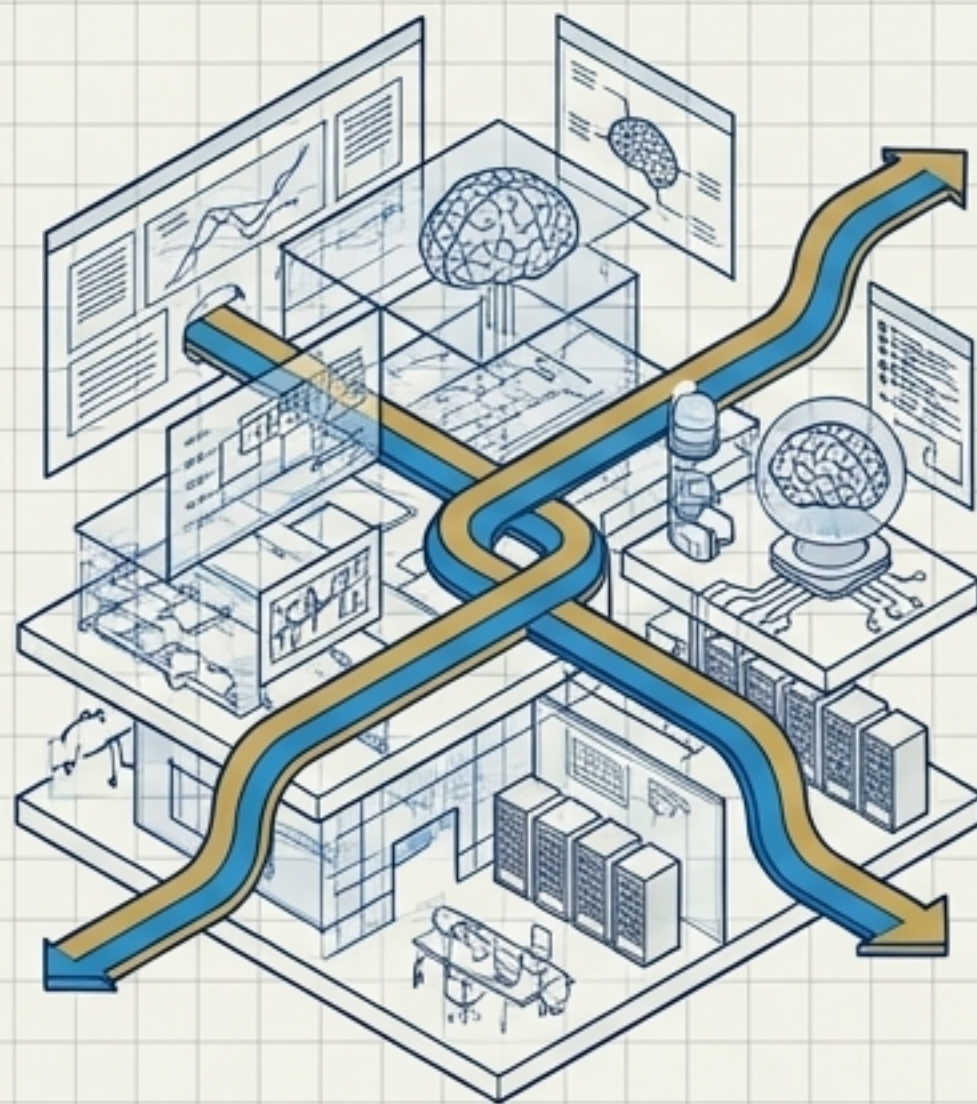
リスク防御マトリクス：想定される脅威と構造的対策

リスク

システムベクトル 構造的対策

 権利の濫用 (離脱・再接続の乱用)		 [対策] 冷却期間 (Cooling-off Period) の設定
 指標ハック (Goodhart化)		 [対策] 移動標的 (Moving Target) と外乱注入
 目的変位 (初期目的からの逸脱)		 [対策] 定期レビューによる強制確認
 過度な透明化 (プライバシー侵害)		 [対策] 二室モデル (公開室と機関室の分離)

抽象ケースプロトタイプ：社会実装のモデル



【研究コンソーシアム】
焦点：再合意短縮率（MAI）
摩擦のない成果配分と迅速な接続。

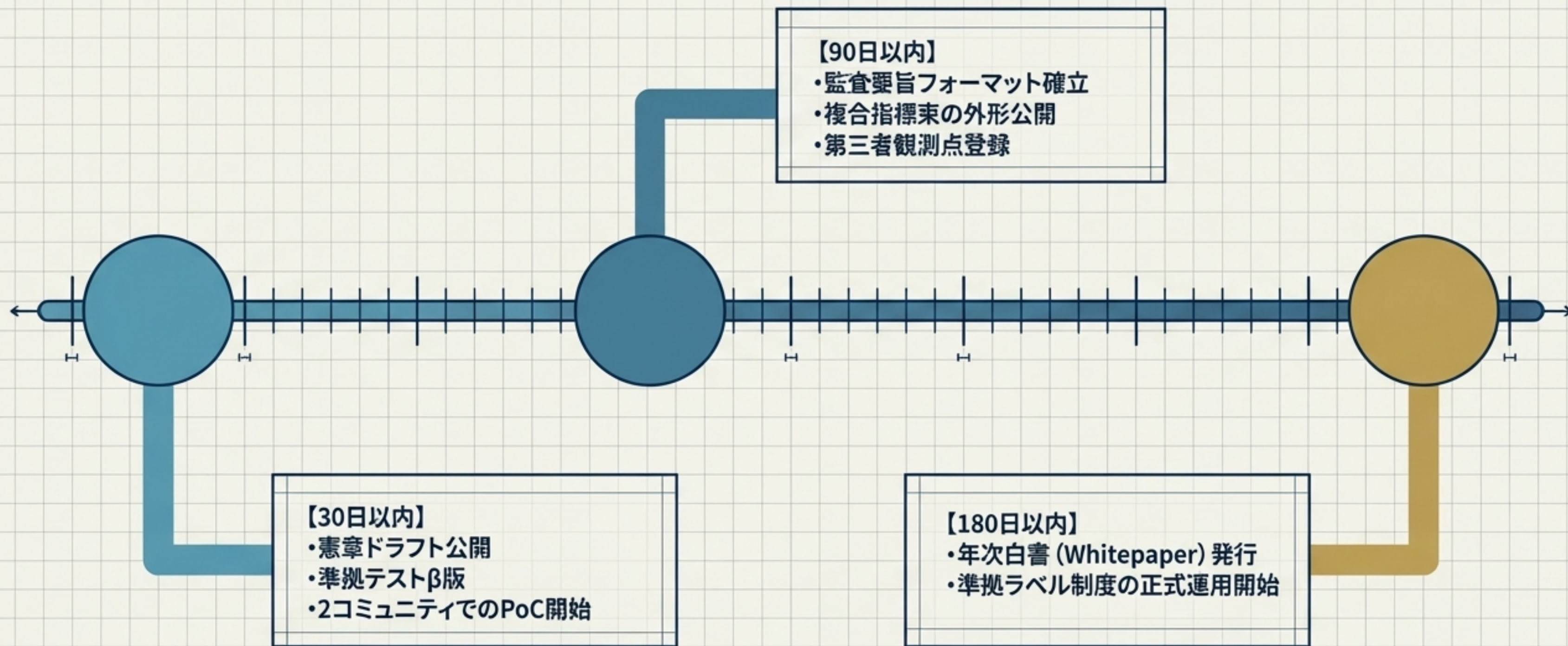


【自治体×市民協働】
焦点：接続密度（CDI）
密度に応じた正当な参加枠の配分。



【オンラインコミュニティ】
焦点：可逆性（RS）
高い可逆性が自然な流入と心理的
安全性（safety）を生む。

憲章実装へのロードマップ（180日計画）



結語：接続の「公共財化」と新社会の言語

接続は資産であり、権利・義務・手続がその価値を保証する。「合意の記憶」は公共財として保存され、一過性の出来事から歴史的な社会資本へと進化する。

規範が、次の社会の言語を定める。

